



東福寺神社の神紋

東福寺神社だより

第5号 令和3年11月10日発行
発行 東福寺神社

〈問い合わせ先〉

- 上組区の総代 ■中組区の総代
- 東区の総代 ■上庭区の総代

氏神うじがみさまざまです

東福寺神社は 私たち上組・中組・東・上庭の

あちこちに施されている



蚕かいこに関する
意匠いしょうが、

保食神うけもちのかみ

養蚕神ようさんじん

▶ 祠の側面（両サイド）に、馬の彫刻が刻まれている



養蚕社ようさんしゃ（蚕神かいこがみ）は、東福寺の
養蚕業ようさんごうを告しらせるシンボル



東福寺は明治・大正の頃から
養蚕業が盛んだった

江戸後期から明治・大正・昭和30年代まで 東福寺は、養蚕業が収入の中心



▲各集落に設けられた稚蚕飼蚕所

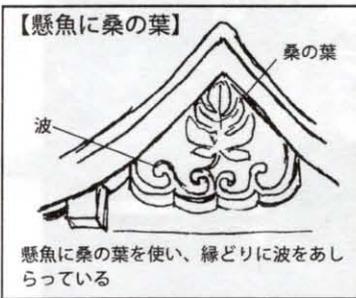
『長野県町村誌』より）
（明治十五年の村勢報告）
百十二石：産す」
その後も米作・麦作
養蚕が農業経営の中心
だったが、大正期は養蚕
の好況に支えられ、東
福寺村は畑の九〇%近

藩政時代から東福寺
は、米作を基本として
綿花・菜種・雑穀・養
蚕が主でした。
「東福寺村三百三戸、
農桑を業とす。女三百
四十一人は養蚕を業と
す。繭千四百四十貫、
米千六十九石、大麦千
百十二石：産す」

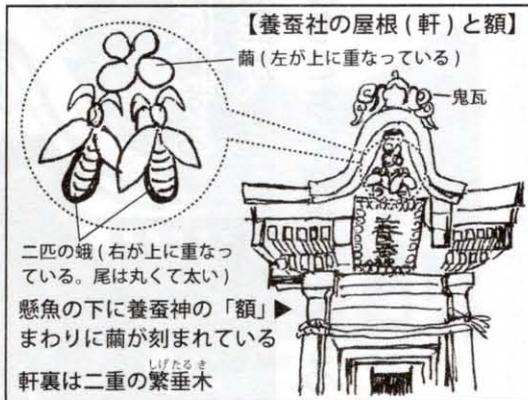
蚕かいこに関する意匠が刻まれ

凝こった造りの「蚕神かいこがみ」

くを桑園にして「おかいこさん」の
増産を図った。当時の桑園面積百七
十九町歩は、近隣ではダントツだっ
た。（大正十二年『長野県史』より）



▲養蚕社背面に明治三十一年十一月
建立 長野市石堂町石工・中山友
三郎と記されている



蚕神と馬の関係

「蚕」と「馬」はたいへん関係が
深い。そもそも蚕の数を一頭、二頭
と数えるほどである。

中国の古書『捜神紀』という本に
蚕糸や絹に関する物語がいくつかあ
る。中に「蚕」と「馬」の悲恋から
「桑の木」が出現する話がある。

中国の「蚕神」の姿は、「馬明王
と呼ばれ、龍が手にするカゴに繭を
持ち、馬に乗っているのである。
「蚕」と「馬」の関係は深く、東
福寺神
社の「蚕
神（祠）
にも馬
が刻ま
れてい
るので、
興味を
持って
見てく
ださい。



桑の木と桑畑

「桑」は中国語で「喪」と同じ発
音で蚕のことを桑（喪）蚕と呼んで
いる。

資料協力／元高校教諭で社寺建築史研究
家の故・相原文哉さんが、東福寺神社に
寄せていただいた調査資料を一部借用。

蚕のエサとなる桑は、たくさん植
えられたところは「桑畑・桑原」と
呼ばれ、農地として最も大切なこ
ろで、神聖な地とされた。
雷を避けるマジナイ・呪文に「桑
原、クワバラ」とよく口にしますが、
語源はここから出ている。
東福寺一帯は明治から大正時代、
畑地の九〇%に桑が植えられ、まる
であたり一面、桑畑でおおいつくさ
れた集落だった。

中組・上組の氏子によって 毎年懇ろな供養神事

小祭り・末社祭

春、秋の大祭に対し、小祭りと呼
んで末社
祭を催し
ています。
末社祭
は例年、
秋の大祭
の数日後
に、上組
と中組両



五明宮司による
懇ろな供養神事

東福寺地区の戸数と人口（『更級統計書』より）

年次	東福寺村		中沢村		小森村	
	戸数(戸)	人口(人)	戸数(戸)	人口(人)	戸数(戸)	人口(人)
文化6年(1809)	—	901	—	162	—	438
安政3年(1856)	210	—	35	—	114	—
慶応4年(1868)	213	1,003	35	165	110	547
明治15年(1882)	302	1,374			119	645
22年	426	2,194				
43年	399	2,517				
大正5年(1915)	395	2,479				
14年	422	2,149				
昭和5年(1930)	425	2,213				

区のみで、昔からとり行われてました。拝殿東側の養蚕神社の前で五明宮司の齋行で、末社祭の当番は、上組と中組が一年交代で務めています。

末社祭の三柱神

東福寺の集落を導き、加護してくれた神として、三つを崇めています。

「保食神と呼ぶ」「養蚕の神」

江戸の昔から、東福寺の住人の衣食住を司ってくれた「お蚕さま」に感謝します。

「迦具土神」

秋葉社と呼び、火伏せ（火防）の神様です。生活の火の用心としておすがり願うのです。

迦具土神



南を向いている

毎年、春祭りが終わる四月下旬、各戸では自宅の畳を挙げて、春蚕の飼育をはじめ、七月繭として出荷が終われば、すぐ秋蚕の飼育にかかり秋祭り前に繭出荷した。

挙げていた畳を戻し、親戚縁者を招く秋祭りの準備を、あわたたくしくやったもんだ。当時の秋祭り前夜祭



東福寺は、蚕の生産が盛んな頃は各集落に、稚蚕飼育所が設置されて稚蚕の生育を計ったものだ。

猿田彦神



西を向いている

厄除けの神であり、「みちひらきの神様」です。自身の穢れの大祓いを、これらの神に託し、その他の石祠に感謝をささげ、四手のお切り換えをかかさず行っています。



庚申塔 (万延元年)



庚申塔 (万延元年)



神社境内の東側に居並ぶ石神

境内に並ぶ石造神
ご利益多し12基の石祠

（神楽奉納）には、屋台も3〜5店出店し、賑わいが夜遅くまであったなあ、人もたくさん出た！末社祭の前は各戸が灯笼をかかけて、「蚕神」



庚申塔



庚申塔



庚申塔 (安政七年)



二十三夜塔

青面金剛石仏
〔宝暦年間の石仏〕
この石造物群の中で一番古い



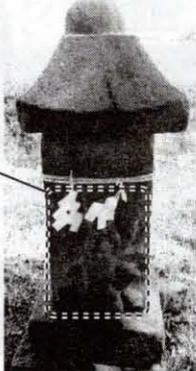
庚申塔



▲判断できない石仏



この部分の元図
足元に猿、頭の脇に鶏、それぞれが一对描かれている



を祝い感謝した。今でこそ、末社祭の扱いが軽くなっているが、養蚕農家にとつてたいへん重要な祭事だったんだよねえ。

東福寺神社に漂う風格

神社の幟旗

神社に

とつて無

くてはなら

ないものが

幟旗だ。各

地、村々の

祭り期日を

知らせる発

信塔でもある。



サッカー・リススタジアムの南側直前に立つ、東福寺神社と幟旗。最強軍神が見守っている

東福寺神社で今使われている幟旗は、明治初期の神社起源からして五代目の幟になるかもしれない。揮毫していただいたのは、稲荷山出身の国会議員で、長野、更級、北信を地盤にした倉石忠雄さんだ。労働・農林・法務大臣を歴任した。二度目の労働大臣就任（昭和三十三年六月）を記念して揮毫していただいた。

萬物生光華

昭和二十一年七月廿日

読み下し文 ばんぶつこうかしょうす
大意 生きとし生けるすべてのものが美しく輝いている

和氣治昌辰

倉石忠雄 揮書

読み下し文 わきしやうしんあまねし
大意 和やかな気が明るい光のもとあまねく降り注いでいる

(文責・大久保総代)

大鳥居の寄進

神社の参道に立つ大鳥居は

中組の氏子・渡辺善治郎さん（現戸主・渡辺文治さんの祖父）による寄進で建立されたもの。現存するお孫さんたちが「おばあちゃんがよく言っていた お宮の鳥居はじいちゃんが松代豊栄の山を売って建てたんだ」。大鳥居はいつの建立か定かでない。



▲35年前に銅板葺きされ堅牢な鳥居に

和田家寄進の常夜灯

神社参道脇に立つ、モダンな常夜灯は、上庭の氏子・和田九郎衛門さん（現戸主・和田文利さんの五代前戸主）による寄進で、天保十年、今から百八十年前の建立である。

五十五年前の松代群発地震で、灯籠部が潰れて破損したが、十年前に和田家によつて

修復した。



「鎮守の杜」で育つ子

神聖な「鎮守の杜」は、境内は静かだ。木の葉が風に揺られる音、小鳥や昆虫の鳴き声が四季折々楽しめます。子どもにとつて、森は不思議な国の入り口で、太陽や風さえも、森の中にいるといつとも違って感じられます。森を探検すると、今まで出会ったこともないようなワクワクする遊びがたくさん待っています。

この良さを知ってもらいたく、自然物を探す「フィールドビンゴ」という遊びを、親子で過ごしました。「ハロウィン」も楽しみました。

昔から人は自然の中に神さまの力を感じながら暮らし、子どもは神さまの森で思っきり遊ぶことで、自然を大切にすることを学んできました。子ども



▲「かたつわり発見！」フィールドビンゴで大切にすることを学んできました。子どもの遊び場が減少する中「鎮守の杜」はほんとうに貴重な場所です。



▲木の実をつけたマントがかわいい。

（東部保育園記）

おいしい牛乳を皆さまにお届けします

長野牛乳株式会社

長野市稲里町田牧 1548 TEL:026-284-3114

